

私は今回初めて選挙に行った。今年の七月の参議院選挙から選挙権が十八歳以上の人に与えられることになり、高校生である私も選挙権を得た。自分も国の政治を決めるための一票を投じることができると考えると、責任を感じた。

今回の参議院選挙に行った理由は大きく三つある。一つ目は、自分の選挙権が与えられ初めての選挙だったからである。自分にとって初めての選挙には行きたいと以前から思っていて、それをやり遂げることができたのはうれしい。二つ目の理由は、今回の選挙は初めて十八歳以上の人に選挙権が与えられ、日本の歴史に残るような選挙だったので、その歴史的な出来事に自分も立ち合いたいと考えたからだ。自分の中でも日本にとっても、大きな意味のある選挙だったと思う。三つ目は、自分の一票が国の政治に影響することの責任を感じたからだ。日本は間接民主制であるため、私たちは選挙で投票することで国の政治に参加する。せつかく国から選挙権が与えられたにもかかわらず、その権利を行使しないのは、好ましくないことであると私は考える。今回、十八歳以上の人に選挙権を与えたのは、若者の意見を国の政治に反映させたいという意図があったと考える。国が私たちの意見に耳を傾けてくれたので、私たちは意見を述べるべきだ。

今回の選挙を通して、自分が日本の政治に関わる年齢まで成長したことを確認できた。これからの日本を背負っていく世代としてのスタートラインに立った。現在の日本は数多くの問題をかかえている。それらの問題を解決するための一員になったので、その責任をしっかりと果たしていくことは、日本人として必要だと思う。現在は選挙の投票率が悪い。日本のさらなる発展のためには、国の政治を活発にする必要がある。そのためには、国民の意見をより反映しなければならない。そのためにも、国民の投票率を上げることは大きな課題だと考える。